

大府 かわら版



敬老事業の問題点などただす

9月
市議会

日本共産党・久永市議が意見表明

8月28日(水)から9月30日(月)まで行われた9月議会では、令和5年度に行われた事業などについて決算審査が行われました。討論の中で、日本共産党・久永かずえ市議は、反対する事業の問題点だけでなく、市民のために早急に進めて欲しいことなどについても、以下のようにきちんと発言し意見を述べました。

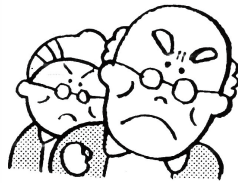
若ものが集える場所の確保を

飲食店などを利用すればお金がかかることを考えると、学生や若者が気軽に待ち合わせする場がありません。若者を対象とした企画も大事ですが、環境を整えるだけで、若者たちは自然にその場所へ集まるのではないのでしょうか。勉強したりおしゃべりしたりと自由に使えるイスとテーブル、スマホなどのに利用できるフリーWiFi、充電できるコンセント、などの環境があれば最高です。各地域にある公民館をもっとゆるく開放するなどの工夫も必要ではないでしょうか。



敬老会をなくし「幸齢者フェスタ」に

9月の第二月曜日は「敬老の日」。「敬老」とは言葉通り高齢者を「敬い、いたわる」意味で、大府市も例年、敬老事業をおこない横根体育館を会場に「敬老会」を催してきました(令和3年4年はコロナ禍で中止)。ところが令和5年度からは「敬老会」ではなく「いきいき幸齢者フェスタ」に変更。対象年齢を70歳以上から75歳以上へと引き上げました。「敬老」ではなく「高齢者」が自ら参加するイベントへと目的を変えたというのです。



参加しない人には記念品を贈らない

これまでは対象者に敬老会案内のハガキが送られ、当日ご本人が参加できなくても代理の方がそのハガキを持参すれば記念品を受け取れました。後日でも一定期間、市役所窓口でハガキと記念品の交換ができました。そのことと高齢・長寿を市から祝ってもらえていと実感できていたのだと思います。ところが――。高齢者が市に招かれて「敬老、いたわられる」敬老会から、高齢者自身の参加型イベントへ――この「目的変更」で、恒例の「敬老記念品」もイベントに自ら参加した人だけに渡すということに変更されてしまいました。

当事者の声に添っていい対応こそ

催し案内ハガキは、これまでと同じ時期に届き、同じ場所での開催が知らされますが、これだけでは記念品の扱いなどの変更がとても分かりにくくなっています。日本共産党の街頭宣伝中に不自由な足で通るのか、中に入った方は、参加者しか記念品を受け取れなくなったことへの怒りとともに「実用的なタオルを配って欲しい。その返事を次の市広報に乗せて欲しい」という強い要望を寄せられました。高別の方は「敬老会で配布された」高



相談はお気軽に声かけください



生活相談 日常生活の困りごとについてご相談ください。

予約制で弁護士が対応

法律相談

10月16日(水)午後6時〜^{無料}

お急ぎの方も、まずは久永議員へ

久永かずえ 090-1758-3521
携帯電話

財源確保し小学校も給食無償に

大府市でも、給食費の無償化は中学生から始まり、小学校への拡大が期待されています。そのため、財源の確保、とりわけ県の支援が必要で、青森県では、県の責任で小中学校の給食無償化を実施。沖縄県では中学校を対象にして、給食無償化のために必要な費用の半額を県が補助しています。全国2位の財政力をもつ愛知県に対して大府市からも、半額補助をぜひ求めていただきたいと思います。



吉田・米田地域の要求実現を

①市南部の吉田・米田地域に3つ目の消防出張所を整備し計画的な消防職員配置で迅速な現場到着体制の確保を。
②市南部地域の交通網確保で買い物不便を解消する早急な対応を。とくに②では、近所にスーパーが整備されてもそこまで買い物に行く手段がないという声も。ある方は「ふれあいバスで行けるから」と、わざわざ遠くの店まで出かけています。公共交通充実で買い物困難地域は減らせます。運転手不足も市で直接雇用するなど安定的に運行できる手段の検討が必要です。市民は、今この時間も困っています。命と健康を守るふれあいバスの増便、地域バスなどの新設で早急に交通網の確保が必要です。

